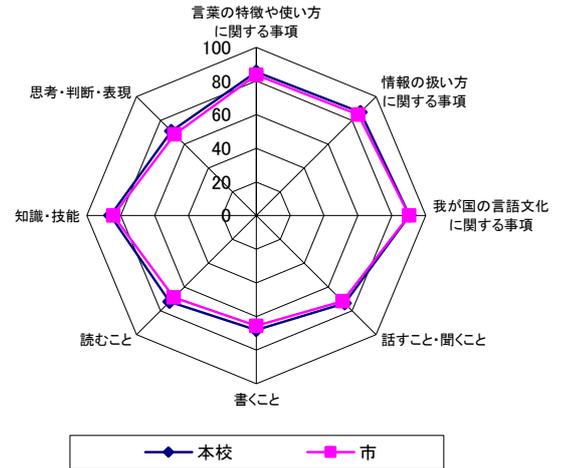


# 宇都宮市立陽北中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	85.4	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	86.9	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	90.3	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	73.8	72.1	67.8
	書くこと	68.0	65.5	51.8
	読むこと	72.4	68.9	57.8
観点別	知識・技能	86.1	84.4	80.5
	思考・判断・表現	70.9	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

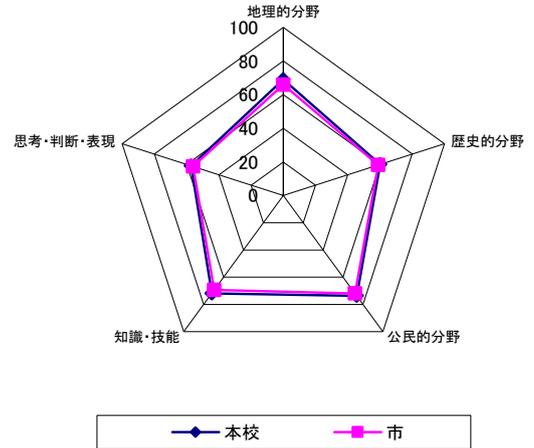
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>正答率は、市平均を1.8ポイント上回った。</p> <p>○類義語の理解について問う問題についての正答率が市平均を4.3ポイント%上回った。</p> <p>○故事成語「大器晩成」について理解を問う問題についての正答率が市平均を4.2ポイント上回った。</p> <p>●「曲のかしを覚える」漢字の書きの正答率が市平均を0.9ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・類義語・対義語、故事成語などは、継続した語彙指導の中で確実な理解と定着を図っていく。</p> <p>・漢字の読み書きについて、補助教材を活用しながら折に触れて指導し、小テストなど行いながら定着を図る。また、読書の推進を図り、漢字に慣れさせる。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>正答率は、市平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>○情報と情報との関係を様々な表し方を理解し使っていることを問う問題についての正答率は86.9%だった。</p>	<p>・説明的文章において、読み取った内容をわかりやすく、効果的な図や表などを用いてまとめる学習活動を取り入れる。</p> <p>・話し合い活動や聞き取り問題においても、メモの取り方を工夫して、情報の扱いに関する学習活動を取り入れていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は、市平均を0.1ポイント上回った。</p> <p>○現代語訳を手掛かりに古典を読んでいることを問う問題の正答率は90.3%であった。</p>	<p>・古典作品の有名な冒頭部分などの暗唱の活動を取り入れて、古典の表現に慣れさせる。</p> <p>・初めて見る古語も、注釈を活用し、前後の文脈を捉えることで、ある程度推測できることや、それによって初見の古典も読むことができることを指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>正答率は、市平均を1.7ポイント上回った。</p> <p>○話の展開を予測しながら聞いていることを問う問題での正答率は94.5%だった。</p> <p>●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話していることを問う問題で、市平均は上回ったものの、正答率は59.3%だった。</p>	<p>・実生活から相手の話を正確に聞き取ることを意識させる。授業の中でも話し合いの活動を意図的に設定していく。</p> <p>・問題の条件を捉えられていない解答が見られたため、示された条件を満たす解答を作ることを指導していく。</p>
書くこと	<p>正答率は、市平均を2.5ポイント上回った。</p> <p>○自分の考えが分かりやすく伝わる文章に工夫しているかを問う記述問題では、市平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じて伝えたいことを明確にしているかを問う記述問題では、市平均を1.4ポイント下回った。</p>	<p>・今まで通り、様々な場面で書く活動を取り入れるとともに、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にして文章が書けるように、相互評価や教師からのフィードバックを行い、自らの文章を振り返る機会を設ける。</p> <p>・作文を書く際に、字数や段落構成などの条件を指定して、きちんと理解して守りながら書くことを指導する。</p>
読むこと	<p>正答率は、市平均を3.5ポイント上回った。</p> <p>○説明的な文章の内容を読み取る問題は、全問題で正答率が市平均を上回り、特に論理の展開について問う問題については、6.6ポイント上回った。</p> <p>○文学的な文章の内容を読み取る問題は、全問題で正答率が市平均を上回り、特に文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見を持つことを問う問題については、4.7ポイント上回った。</p>	<p>・各学年の指導事項を適宜確認しながら、様々な文章の中で、目的に沿った正確な読みができるよう、効果的な言語活動を取り入れて指導していく。</p>

# 宇都宮市立陽北中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	69.0	66.0	57.8
	歴史的分野	60.1	58.9	51.4
	公民的分野	73.7	72.0	72.2
観点別	知識・技能	71.8	69.3	62.9
	思考・判断・表現	57.2	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

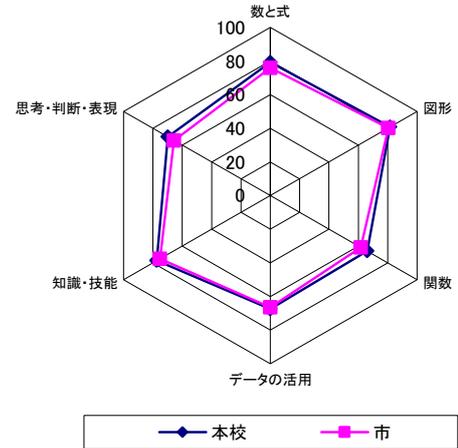
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は、市平均を3.0ポイント上回った。 ○日本の貿易の特色について問う問題では市平均を6.7ポイント、日本の各地方の自然環境について問う問題では市平均を6.4ポイント上回った。 ●東北地方・九州地方の産業と人口の特色について問う問題では市平均を6.0ポイント下回った。	・資料を比較したり、読み取る力を養うために日頃の授業から資料を用いたり、読み取ったりする機会を増やしていく。 ・各地方の特色を理解するため、各単元を通しての課題を毎時間確認し、生徒に意識させながら授業を進める。
歴史的分野	正答率は、市平均を1.2ポイント上回った。 ○世紀の表し方について回答する問題では市平均を12.0ポイント、徴兵令について問う問題では市平均を6.6ポイント上回った。 ●国会開設の勅諭と政党の結成について問う問題では市平均を5.3ポイント下回った。	・歴史的事象が起こった背景や原因・理由を意識させる。 ・資料(史料)に触れる機会を増やし、読み取る力を身につける。 ・明治時代の政治に関心を持ってもらうため、公民分野の政治の理解と合わせて現在の政治との比較を授業で取り扱う。
公民的分野	正答率は、市平均を1.7ポイント上回った。 ○憲法改正の手続きについて問う問題では市平均を3.9ポイント、公共の福祉について問う問題では市平均を2.6ポイント上回った。 ●新しい人権について問う問題では市平均を1.4ポイント下回った。	・生徒になじみのある具体例や生活に関連した判例などを挙げ、新しい人権について理解しやすい工夫をしていく。 ・公民分野に対して興味を持ってもらうため、時事を積極的に取り上げ、日々のニュースや国際情勢などを理解できるようにしていく。

# 宇都宮市立陽北中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	79.3	76.0	69.0
	図形	81.6	80.5	67.7
	関数	66.0	61.6	55.0
	データの活用	67.4	66.5	56.4
観点別	知識・技能	77.4	75.1	69.4
	思考・判断・表現	69.9	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

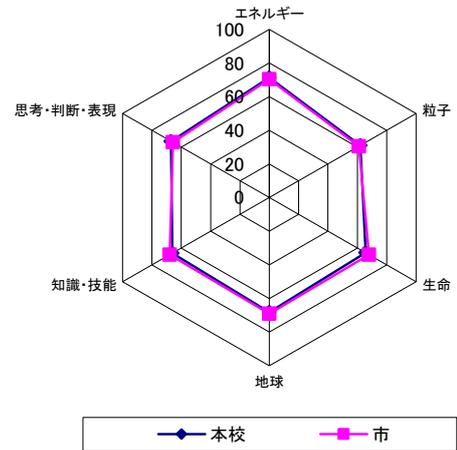
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、市平均を3.3ポイント上回った。</p> <p>○囲んだ数の和が、5の倍数であることの説明を完成する問題では市平均を9.8ポイント、乗法の公式を使って簡単にする問題では市平均を7.8ポイント上回った。</p> <p>●与えられた文章題に対して、適切な連立方程式を立式する問題では市平均を1.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を自分の言葉で整理し、未知数を明確に決め、合計・差などの関係を式に変換する手順を確実に身につけさせる。</li> <li>数量の関係を図や表で整理し、視覚的に理解させる。</li> <li>解いた後に「なぜその式になるのか」を自分の言葉で説明させ、理解を定着させる。</li> </ul>
図形	<p>正答率は、市平均を1.1ポイント上回った。</p> <p>○対称移動させて重ね合わせることができる四角形について、対応する点の位置を選ぶ問題では市平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>●補助線をひいて、平行線と錯角の関係を利用して角の大きさを求める問題では市平均を2.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対頂角・同位角・錯角と平行線の関係を確実に理解させ、角の対応を正しく判断できるようにする。</li> <li>補助線の引き方と根拠(どの性質を使うか)を明確にし、解いた後に「なぜその補助線なのか」を説明できるようにさせる。</li> </ul>
関数	<p>正答率は、市平均を4.4ポイント上回った。</p> <p>○比例と反比例、1次関数、<math>x</math>の2乗に比例する関数すべての問題では市平均を上回る結果となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の指導については、「変化の様子を表す」という本質を押さえ、入力と出力の対応関係を、表・式・グラフを結びつけて理解させる。</li> </ul>
データの活用	<p>正答率は、市平均を0.9ポイント上回った。</p> <p>○箱ひげ図から、示された主張ができる理由を説明する問題では市平均を3.7ポイント上回った。</p> <p>●四分位範囲を求める問題では市平均を0.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四分位数の意味と求め方、四分位範囲の手順を確実に理解させ、位置の取り方を丁寧に確認させる。</li> <li>箱ひげ図を描くだけでなく、最小値～最大値の5点からデータの特徴(中心・ばらつき・偏り)を読み取る習慣を身につけさせる。</li> </ul>

# 宇都宮市立陽北中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.3	70.3	59.4
	粒子	62.0	61.1	56.4
	生命	65.7	67.9	62.7
	地球	68.2	69.1	65.6
観点別	知識・技能	66.1	67.9	63.8
	思考・判断・表現	67.0	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

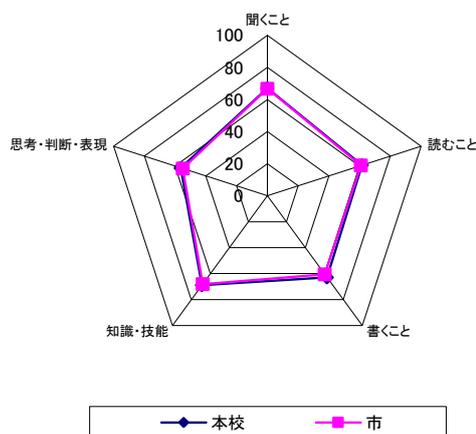
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は市平均を1.0ポイント上回った。</p> <p>○「光の性質」の単元において、光の反射の法則を正しく理解し、光の進み方について基本的な知識を問う問題で市平均を6.7ポイント上回った。</p> <p>●「運動とエネルギー」の単元において、力学的エネルギーの保存に関する法則性を理解し、おもりの正しい振れ方をモデル化して捉える問題で市平均を12.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力学的エネルギーの保存など、頭の中だけで考えにくい内容については、板書やワークシートの図を活用し、動きとエネルギーの関係を視覚的に整理する機会を増やす。</li> <li>・抽象的な法則を、身近な遊具や乗り物の動きに例えて解説するなど、生徒がイメージを持ちやすい工夫を継続する。</li> </ul>
粒子	<p>正答率は市平均を0.9ポイント上回った。</p> <p>○「化学変化と物質の質量」の単元において、より多くの酸化銅を得るために銅の粉末をかためて置く方法が適さない理由を説明する問題で、市平均を8.5ポイント上回った。</p> <p>●「水溶液の性質」の単元において、質量パーセント濃度を求める式を理解し活用する問題で、市平均を5.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算ミスを防ぐため、ビーカー内の様子を簡単なモデル図で描く習慣を促し、公式を機械的に使うのではなく、意味を確認しながら立式できるよう支援する。</li> <li>・基本の濃度計算を授業の導入や振り返りで短時間取り入れるなど、繰り返し触れる機会を設けて定着を目指す。</li> </ul>
生命	<p>正答率は市平均を2.2ポイント下回った。</p> <p>○「植物の体のつくりとはたらき」の単元において、葉の表側にワセリンをぬった植物がどこで蒸散しているのかを指摘できる問題で、市平均を1.7ポイント上回った。</p> <p>●「遺伝の規則性と遺伝子」の単元において、孫の代の種子の遺伝子の組み合わせを考える問題で、市平均を5.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子の組み合わせを考える際、表(パネットスクエア等)を積極的に活用させ、複雑な情報を整理して解く手順を丁寧に指導する。</li> <li>・対立形質や分離の法則といった基本原則を繰り返し確認し、複雑な問題に対しても基礎から順を追って考えられるよう促す。</li> </ul>
地球	<p>正答率は市平均を0.9ポイント下回った。</p> <p>○「地震」の単元において、震度の大きさと震源からの距離の関係を正しく理解している問題で、市平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>●「気象の観測」の単元において、大気圧について理解し、そのはたらきを問う問題で、市平均を6.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気圧などの捉えにくい概念は、身の回りの現象(気圧による変化など)と結び付けた解説を行い、実感を伴った理解を目指す。</li> <li>・教科書の図面やデジタル資料を有効に活用し、目に見えない大気の動きや圧力を視覚的に捉えられるようサポートする。</li> </ul>

# 宇都宮市立陽北中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	67.0	66.8	61.5
	読むこと	61.6	60.9	55.5
	書くこと	62.8	60.5	50.9
観点別	知識・技能	68.9	68.1	64.1
	思考・判断・表現	56.4	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は市平均を0.2ポイント上回った。</p> <p>○対話文の応答では、対話を聞き、対話の概要を捉える問題において3問が市平均を上回った。</p> <p>○必要な情報を聞き取る問題において7.4ポイント市平均を上回った。</p> <p>●内容理解では、内容を理解して合う絵を選ぶ問題で4.3ポイント、日常的な話題について概要を捉える問題で4.9ポイント市平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き帯活動としてディクテーションを含んだリスニング問題を活用する。</li> <li>ペア活動で会話を行ったり、テーマごとに発表したりする活動を行う。</li> <li>ALTやデジタル教科書の音声を活用し、正確な発音を身に付ける指導を行う。</li> <li>教科書の音読を繰り返し行う。</li> <li>興味関心の差に関係なく行える活動を取り入れる。</li> </ul>
読むこと	<p>正答率は市平均を0.7ポイント上回った</p> <p>○必要な情報がどの部分にあるかを把握して適切な箇所を選ぶ問題において市平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>○長文の読み取りにおいて、メールの内容を理解する問題で市平均を7.7ポイント上回った。</p> <p>●語形・語法の知識・理解において、現在分詞の用法の問題が市平均を6.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法を繰り返し練習し長期的な定着を目指す。</li> <li>単語の学習や確認テストを定期的に行い、語彙やイディオムの定着を図る。</li> <li>家庭学習でもAIドリルを活用できるよう指導する。</li> <li>授業内やALTとのやりとりで、既習内容を応用できるよう多くの文章に触れ、意図的に活用させる。</li> </ul>
書くこと	<p>正答率は市平均を2.3ポイント上回った。</p> <p>○英作文において、場面に応じて書く英作文では6.0ポイント、3文以上の英作文で自分の考えや意見をまとめた内容で紹介する問題では市平均を4.1ポイント上回った。</p> <p>●並び替えによる英作文では、文型を問う問題 (make+(代)名詞+形容詞) では5.0ポイント、「助動詞have toの否定文」では1.0ポイント市平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の表現を利用しながら生徒が表現したいことが書けるような英作文指導を行い、文法の定着を図る。</li> <li>教科書の本文等を利用して、読み取った文章の内容を簡便な言葉で再構築するリテリング活動を取り入れる。</li> <li>発表などの際はICTの活用を支援する。</li> <li>ALTの協力を得て、英作文のフィードバックを行い、正確性を向上させていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立陽北中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○家庭学習の定着と充実	・家庭学習の目的とやり方を明確にし、量より「質」を重視した課題を設定し、取り組みを振り返らせる仕組みをつくって習慣化を促す。	○「ふだん、学校の授業以外に、一日どれくらい学習していますか」に対しての本校割合は、 ①月～金について1時間以上：1年生75.6%、2年生79.4%、3年生93.6%であり、市割合と比べると1年生は7.2ポイント、2年生は10.4ポイント、3年生は1.5ポイント上回った。 ②土・日について1時間以上：1年生75.0%、2年生77.9%、3年生90.9%であり、市割合と比べると1年生は10.7ポイント、2年生は14.9ポイント上回っており、3年生はほぼ同数であった。 ○「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対しての本校肯定割合は、1年生65.9%、2年生62.0%、3年生64.1%であり、市肯定割合と比較すると、1年生は10.3ポイント、2年生は7.7ポイント上回っており、3年生はほぼ同数となった。
○教師の授業力の向上～「わかる」授業の展開	・学習のねらいを明確に示し、基礎となる考え方や手順を丁寧に押さえ、生徒が自分で理解を確かめながら学べるように、説明・活動・振り返りを一貫して工夫する。	○「学校の授業がどの程度わかりますか」に対しての本校肯定割合は、1年生82.9%、2年生84.7%、3年生83.8%であり、市肯定割合と比較すると、1年生は同数、2年生は5.4ポイント、3年生は3.8ポイント上回っている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- 家庭学習の定着
  - ・「家庭学習ノート」を継続しつつ、各教科が学習ポイントを提示して選択肢を広げ、生徒が自分に必要な学習に取り組めるよう促す。
  - ・興味や趣味と学習を結びつけ、学習意欲を高める。
- 授業力向上による学力向上（わかる授業の展開）
  - ・「授業力向上旬間」で宇都宮モデルを活用し、学習のねらい・見通し・振り返りを明確にした“わかる授業”を継続する。
  - ・「書く」活動を軸に、思考の整理・理解の可視化を図る授業を進める。
- 授業改善の具体的実践
  - ・多様な教材やリソースを活用して興味を引き出す。
  - ・ディスカッションやグループワーク、実社会とつながる教材で主体的な学びを促す。
  - ・生徒からのフィードバックを定期的に取り入れ、授業を改善する。
  - ・研修で得た最新の教育理論や実践を職員間で共有し、情報交換を進める。